
恋人は芸能人!?

ERI

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋人は芸能人！？

【NZコード】

NZ557M

【作者名】

ERI

【あらすじ】

タイトルのとおりです。ふつうの女子高生の優子と芸能人の怜の恋愛劇…になる予定でござります。

第1話　はじまりはパンツから

優子は、美和と響子と3人で、いつも下校ルートを歩いていた。都心から少し離れた、さびれた感じの商店街が連なっている。街角には、ちょうど夕方に売り出されるコロッケの揚げた良い匂いが、ふわりと香った。

「ねえねえ、明日の小テスト、勉強した?」

美和が、携帯音楽プレーヤーの音をシャカシャカと漏らしながら、言った。

この状態で質問してくるのもどうだろうと、思いながら響子は答える。

「ううん、してないー、優子は?」

「してないよ~」

三人は、同じ桜丘高校の1年生だ。

田じごの会話は、部活に入ろうか悩んでいるだの、翌日の小テストから、クラスの男子、へんな癖のある教師の笑い話などで持ちきりである。

今日もそんな話題で、三人がおのの帰路につくはずだった。しかし…。

老人しか歩いてない商店街の向こうから、一人の人物が、走つてやつてくる。

帽子を目深にかぶつて、サングラス、ちょっと釣り好きのオジサンが着るようなポケットのいっぱいいた深緑色のジャンバーに、水色のジーンズ。

体格からして、男のようである。

それを追いかけるように、スース姿の男が2・3人。胸にカメラを下げて、その男を追っている。

怪しい一団である。

ジャンバーの男は、カメラの集団を何度も振り返り、逃げるように、優子達のほうへ走ってきた。

「あつ！危ない！！」

響子が叫ぶ。

間に合わない。

あつ！という叫び声とともに、優子とジャンバー男は、正面衝突してしまった。

目の前で星がチカチカする。

頭を打つたので、頭もズキズキする。

「痛い…」

「あつ…ごめん」

しりもちをついた優子にジャンバー男は謝る。

そして、優子の方へ、手を差し出した。

「ど、どうも…」

見た目の怪しさと、意外な行動の優しさに、優子は戸惑った。

「ちょ、ちょっと優子…！」

「へ？」

美和が顔を手で覆っている。

響子は、口元がひきつっている。

どういう事？？

優子は、一瞬考えたが、すぐに我に返る。

パンツが丸見えだつたのだ。

「わっ！…わわわっ」

慌てて立ち上がり、大丈夫です、大丈夫ですと、連呼する、が、パニクつているのは明白である。

あわわ、見知らぬ人に、パンツ丸見えつて…！やだーー！

真っ赤になつて、優子がうつむいている、ふふっと笑い声がした。

ぱつ、と見上げる。

意外と背が高い。

「大丈夫だよ、見てなかつたから」

そうをさやくように言い残して、男は風のよつに去つていつた。
後ろで律儀に見ていたカメラの一団も動きを止めるのをやめ、男を追つていつた。

そのうちの一人が、こちらに走つて来る。

「な、なんだる…」
「パンツのことかな？」
「ちがうでしょ」

三人でそんなひそひそをしていると、長方形みたいな顔の四角い男が、ずいと顔を近づけてきた。

「何か言われましたか？」

「ふつとい眉がぴくりとあがる。

ずいっと差し出されたのは、録音できる装置のようだ。

「えつ…！？い、いえ…なにも…」

優子が答える。

「ですか」

男はあからさまにがっかりとした表情で肩を落とした。

「あ、あの…あの人、なんなんですか？」

優子が尋ねると、男は、意外にもあっさりと教えてくれた。

「ああ、あれはねえ…神威っていうバンド知ってるかな？そのギタリストの冷だよ」

「えつ…？あの、神威の…？」

神威といえば、メジャーなロックバンドで、今若者に絶大なる人気を誇るバンドである。

硬派な音樂性に、おのれのメンバーの個性がキラリと光る、まさに綺羅星のような存在だ。

そんな人物が、こんなさびれた商店街に？？

優子は信じられなかつた。

神威の冷といえば、クールでスタイリッシュなキャラなのに…あんなオジサンジャンバーに、オバサン帽子、オタクジーパンに、ダサいグラサン…

とてもファッションセンスのある人物のチョイスとは思えない格好だった。

「ウソー…あれが冷?」

「でも本物かな〜」

美和と響子は隣でキヤー キヤー言つている。

美和は、さつき神威の曲聴いてたんだあ トミーハーな」とを言つて盛り上がつている。

「じゃ、そういうコトなんで」

そういうて、四角顔の男は、パタパタと冷を追いかけいつた。
これが、二人の始めての出会いだつた…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2557m/>

恋人は芸能人!?

2010年10月14日14時14分発行